みなみたま

会 法「みなみたま」第10号
発　　行　南多摩同窓会あかね会
発 行 者　小林　幹彦
〒192-8562　東京都八王子市明神町 4-20-1
東京都立南多摩中等教育学校内
URL：www.akanekai.org/
Email：mail@akanekai.org

早川　直樹さん

「湧水会」の皆様に感謝！

南多摩同窓会あかね会 会長　小林　幹彦

太鼓部が困っているそうです。何に困っているのでしょうか。練習するときの音です。練習時の音が近隣の皆様に迷惑をかけているということなのです。確かに演奏会場では心に届くあの響きは、時と場合によっては騒音になります。古タイヤをたたく、窓を閉め切る、時間を限定するなど工夫はしているのです。しかし、それだけではなかなかご要望に応えられないようです。ご近所の方々の迷惑感も理解できますし、太鼓部にも思いっ切り練習してもらいたいのです。悩むところです。

そのような時、第八回卒業生（昭和31年卒）同期会「湧水会」の皆様からご厚志が送られてきました。太鼓部のために使ってほしいということなのです。まさに勇気づけられました。あかね会としてはこのご厚志をもとに、音を気にせず練習できる会場を借りる費用を補助し、太鼓部の活動を支援することとしました。

今年の夏、全国大会への出場が決まっている太鼓部の活動がますます充実することを同窓生一同で応援したいと思います。

「湧水会」の皆様をはじめ多くの同窓生の皆様、本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

「進学だけじゃない」母校への思い

南多摩同窓会あかね会 会長　小林　幹彦（昭和45年卒）

東大５人、東工大２人、一橋大２人、東京外語大３人、早稲田大56人、・・・、すばらしい進学実績（平成30年３月）だ。しかも卒業した学級数は４クラス、卒業生数はたった152名だというから賞賛に値する。しかし、南多摩のすごさはここにだけあるのではない。日常の教育活動、生徒の方から言えば学習活動の中に学びの本質に迫る探究活動が生き生きと存在していることにこそある。私はそれがうれしい。そこに誇りを感じる。

具体例をあげよう。

小さなころからアメリカの大自然に興味を感じていた生徒が、南多摩のフィールドワーク活動で探究心に火をつけた。居ても立っても居られない。アメリカの大学に進学した。日本にはない大自然を抱える大学だ。英語の壁など何のその。実に逞しい。

部活動で太鼓を叩きまくった生徒が、折れてしまうバチに興味を持った。バチを分析する探究心、研究方法を工夫し、まとめあげる資質・能力は広く認められた。更なる探究の場所は東大となった。

ピアノを弾くのが好きだった生徒は「～人を引きつける短いメロディとは何か～」を探究した。風呂が沸くのを知らせるメロディなどを、楽譜とコード進行にして視覚化し、人を引き付けるメロディに迫った。この４月からは筑波大で探究心に磨きをかけることになった。

校庭西側の植栽のあたり、秋にはドングリがたくさん落ちている地面に、例年スズランテープで区切られたところがある。何やら植物の芽に袋がかぶせてある。誰か、何かを調べているなとは思っていた。継続する探究心は「クゲヌマラン個体群の群落構造と動態の調査および無菌播種に関する研究」へと結びついた。その生徒はこの４月から首都大学東京で学ぶという。探究心の広がりに期待がかかる。

ざっとこんな感じだ。12歳から18歳という成長の著しい、感性の豊かな時期に南多摩という環境に学ぶ若者たち。その多彩な才能を想像するだけでワクワクしてくるではないか。それが私たちの後輩だ、そこが私たちの母校だと思うと、自慢げに言うのはちょっと気恥ずかしいけれど、自尊心をくすぐられる。誇りをもたずにいられない。

彼らの学び、成長を支える環境の一つとして同窓会もできる限りの支援を継続したいと強く思う。

進化し続ける南多摩中等教育学校を目指して！

南多摩中等教育学校長　永森 比人美

あかね会の皆様には、日頃より本校の教育に対する御支援・御協力をいただき心から感謝しております。本校は中等教育学校になり、今年で10年目、10月31日には周年式典を実施します。本校は、心・知・体の調和から生まれる「人間力」を育むことを教育目標に掲げ、東京都教育委員会の指定校事業を有効に活用した特色ある教育活動を充実させ、生徒の夢の実現を応援しています。

今年度指定を受けている４つの指定校事業（①理数リーディング校、②英語教育推進校、③知的探究イノベーター推進校、④BYOD研究指定校）の内、③知的探究イノベーター推進校では、本校の教育活動の柱である「フィールドワーク活動」を通して育成したい資質・能力を洗い出し、学年ごとにそれぞれの力をどのレベルまで身に付けさせるか等を整理し、教員間の共通認識を深め、図に示して学校案内に掲載しました。また、大学院生や大学生をTA（ティーチングアシスタント）として学校に招聘し、生徒の興味・関心の分野をさらに深化させる支援をお願いしています。これは、探究学習の質を高める取組として効果が出始めています。一方、④BYOD研究指定校では、校内のWi-Fi環境を整備し、生徒所有のスマートフォンを教育活動に使えるようにしました。教室で、いつでもインターネットに接続できるため、調べ学習を円滑に行えるようになりましたし、探究学習で招聘したTAが校内にいない時にも、TAに研究内容について指導をしてもらうことができるようになりました。

また、本校教員が、生徒のスマートフォンを通して、探究学習の振り返りも効率的・効果的に行えるようになりました。さらに特筆すべきことは、④BYOD研究指定校では、AIを活用した問題やＷＥＢドリルを生徒所有のスマートフォンに配信できるようになったことです。これにより、生徒の隙間時間の活用が促され、生徒の個別学習時間が増え学力向上に繋がっています。これらは、都内だけでなく、他道府県の学校からも問い合わせがあり、今年度は本校に視察にお見えになる方々が増加しました。来校者対応に追われて忙しくなりましたが、本校の取組が全国規模に少しずつ認められるようになった証でもあります。

今後も様々な教育資源を最大限に活用し、６年間のストーリーを踏まえた教育活動を展開し、南多摩中等教育学校を進化させ続けたいと思います。

10 年目を迎えた南多摩中等教育学校

南多摩中等教育学校副校長　岡田 貴夫

あかね会の皆様、いつもお世話になりありがとうございます。南多摩中等教育学校となり10年目を迎え、今年10月31日（木）には10周年記念式典を挙行いたします。本校の現状をお伝えし本校の取組について御理解をいただき、本校の一層の発展に向けて、今後もあかね会の皆様の御支援をいただければ幸いです。

南多摩中等教育学校は、国際社会の様々な分野で活躍するリーダーを育成する学校を目指し、心・知・体のバランスのとれた人間力を育む教養教育を推進することを教育目標に取り組んでいます。

今年度は、本校の様々な教育活動がマスコミ等に取り上げられました。

１　7月11日（水）「東京五輪音頭-2020-」の授業成果発表会

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会（東京2020組織委員会）は、2020年に向けて、「東京五輪音頭-2020-」の普及を図っています。

本校は、保健体育の授業の題材として「東京五輪音頭-2020-」を取り入れ、ダンスの基本を学ぶとともに、オリンピック・パラリンピックについても理解を深めてきました。

体育ダンス授業成果発表会で東京五輪音頭を踊る生徒たち

7月11日、東京2020組織委員会の普及活動に協力するとともに、東京都オリンピック・パラリンピック教育の推進を目的として、１学年生徒による体育ダンス授業成果発表会を本校体育館にて開催しました。

「本日は、授業成果発表という位置づけで本イベントを開催します。生徒の皆さん『南多摩中等教育学校、ここにあり』という成果発表にしましょう。授業で指導を受けた内容を思い出し、思いっきり踊ってください。期待しています。」という永森校長の挨拶の後、オリンピアン・パラリンピアンである関根明子さん、田口亜希さん、畠山愛理さんをお迎えしてダンス発表を行いました。

関根明子さん（トライアスロン）

田口亜希さん（パラ射撃）

畠山愛理さん（新体操）

生徒たちは、２番までは「ゆうゆう踊ろう」の振付、３番からは「きびきび踊ろう」と生徒自らがアレンジした振付で、のびのびと楽しそうに「東京五輪音頭-2020-」を発表しました。オリンピアン・パラリンピアンの方々からは、「生徒のみなさんの笑顔がとても輝いていて、楽しんで踊りを踊っているんだなと伝わってきて、私も笑顔になりました。」という感想をいただきました。

生徒たちは、授業を通して、「オリンピック・パラリンピックは平和を象徴した大会だと学校の授業で先生に教えてもらいました。『ハッピー＆ピース』と平和を祈っているこの振り付け部分が好きです。」という感想や、「盆踊りは、みんなと気持ちを一つにできるいい文化だと思います。今のクラスメイトと集まって何かをやるのは最後になると思うから、いい思い出、いい経験になりました。楽しかったです。自分が野球をしていたので、２年後の東京2020大会では、正式種目になった野球を応援して大会を盛り上げたいです。」という感想を話してくれました。

最後にあかね会、明神町４丁目町会の皆様を交えて太鼓部が音頭をとり、全員で踊りました。事前練習にも参加し、御協力いただいたあかね会の皆様におかれましては、大変お世話になりました。ありがとうございました。永森校長から「本校では、１年生の保健体育のダンスの授業の題材として来年も、再来年も東京五輪音頭2020を取り入れ、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催の年には前期課程の生徒480名全員が踊れるようにしてまいります。そして、生徒たちの心の中にレガシーとして残っていくことを期待しております。」とい

う言葉で締めくくりました。下の写真は、イベント終了後の記者に囲まれてのインタビューの様子です。

参加者全員で

２　人権教育（性について）

今年度、人を思いやる心や生命尊重の精神を育てることをテーマに１学年から４学年までの各学年で講演会を開催しました。

（１）10月12日（金）４年生 講演会「立ち上がる選択」

４年生を対象に講演会を行いました。講師は、東京都人権プラザから紹介いただいたフォトジャーナリスト大藪順子氏。内容は「性暴力の実態を知り、自分ができることを考える。自分を大切にするとともに他人の大切さを認める。」というものでした。

人権教育講演会の様子

生徒たちは、とてもよく聞いていました。以下に生徒の感想を紹介します。

・深い内容だった。講師の方は辛い体験だったと思うし、私たちにも起こりうるかもしれないから、自分には関係ないと決めつけないで考えていきたい。
・性犯罪に関してあまり深く知らず、様々な被害者がいるということを知って、もっと色々な人が現状を理解すべきだと思った。
・とても重い話を聞いたなあと思った。人権は大切だなと思った。また、アメリカと日本で色々と違いがあるということにも驚きだった。あまりこういう話を聞く機会がないので、とても貴重な話を聞くことができ、ためになったと思った。ちゃんと人を尊重しながら生きていきたい。

（２）1月23日（水）１・２年生講演会「～自分を大切に～男女の違いと病気について考えよう」

１・２年生を対象に学年別の講演会を行いました。テーマは「第二次性徴に伴う男女の性差を知るとともに他者や自己の心・生命を大切にし、男女の望ましい人間関係を作る」。講師は、立川市毛利もとこ女性クリニック院長の毛利素子医師。思春期における男女の身体の違い・性的マイノリティ・二次性徴・交際について・婦人科の病気についてなどのお話をわかりやすいスライドで説明していただきました。以下は生徒の感想です。

・毛利先生の講演を聞いて知らなかったことをたくさん知ることができました。男性と女性で体の作りや価値観が違うのだと思いました。異性と接するときは、相手のことをしっかりと考え、相手を尊重し、健全な付き合いができたらいいなと思いました。
・みんな人それぞれ違うので、その違いを理解して接することが大切だと思いました。社会的に少数派だったとしても、みんな平等に尊重することが大事だと思いました。

（３）1月30日（水）３年生講演会「今、話しておきたい 大切なこと」

講師は宮益坂メリーレディースクリニック院長の長岡美樹医師。現在、東京都教育委員会では、「性教育の手引」作成委員会を設置し、性教育に係る学習内容・方法の研究や教材開発等に取り組んでいます。本授業は、高等学校で取り扱う内容である「避妊法」「ピルの活用」等を取り上げる発展的な内容を含むため、産婦人科医を

講師として招き、本校の保健体育科の教師とのＴ・Ｔの形で実施しました。また、事前に保護者に丁寧に説明を行い、学習指導要領を越えない範囲の授業も希望すれば選択できるような体制で行いました。結果的には、全員が発展的な内容の授業を選択し、真剣な態度で授業に取り組みました。意見交換で男子生徒は「コンドームを使うことは性感染症にならないためのマナーだと分かった」、女子生徒は「『生』は個人の生命、『性』は心という字が入り、自分と相手の心を大切にする気持ちが含まれている」と話していました。講演後、長岡医師は「性について熱心に教える家庭もあれば、触れない家庭もある。学校にいる間に正しい知識を持ってほしい」と述べていました。このモデル授業はメディアにも複数取り上げられました。

３　12月20日（木） 工学院大学と連携した防災訓練

都立南多摩中等教育学校の生徒会組織・防災支援隊は、2015年から工学院大学村上研究室の学生と共に防災力の向上に取り組んでいます。12月20日(木)、都立南多摩中等教育学校で防災訓練が行われました。当日は、地域のケーブルテレビ局J:COMが取材に訪れ、即日のニュースで放映されました。

訓練はお昼休みから始まりました。まずは、初動対応訓練です。給食を終えて生徒たちが自由に過ごしている中、緊急地震速報の放送が鳴り、各教室に生徒が集まりました。教室ごとに全員集合しているか確認後、フロア責任者が各フロアの集合をチェックして終了です。

続いて、前期生は、各教室で防災ゲームＫＵＧ（帰宅困難者支援施設運営ゲーム）を実施し、このような避難者が来たらどう対応すべきか？など、シチュエーションに応じた対応についてグループごとにディスカッションをしました。

防災訓練の様子

後期生と先生は一時滞在施設運営訓練を行いました。役割ごとに係を分けて、避難者の受け入れを行う施設の運営をします。今日に向けて練りに練ったマニュアル・チェックリストにもとづきながら、それぞれの係の役割をこなしていきました。訓練の締めくくりに生徒が体育館に集まり「防災講話」が行われました。防災支援隊・後期代表生徒より後期生が行った一時滞在施設運営訓練の内容やこれまでに作ってきたマニュアル・チェックリストを実際に使ってみた感想が述べられました。「うまくいかなかった部分はたくさんあったが、改善点も多く見つかったので来年の訓練に生かしていきたい」「ただやらされるのではなく“考える”訓練を」「これを機に、災害について考えてほしい」といった言葉が印象的でした。

最後に、工学院大学村上正浩教授(まちづくり学科)より予想される発災時に困ることや今からできる対策など実践的なお話がありました。引き続き、防災への取り組みを進めていきます。

平成３１年度、本校は知的探究イノベーター推進校、理数リーディング校、英語教育推進校、BYOD研究指定校として教育委員会から指定され、これまでの取組をさらに発展させるべく教職員が一丸となって教育活動を展開してまいります。あかね会の皆様におかれましては、今後も本校への御支援・御協力をいただきたく存じます。教職員一同、今後もあかね会の益々の御発展をお祈りしています。

南多摩中等教育学校卒業生の進路

南多摩中等教育学校 進路指導部主任　徳武 英人

今年卒業の４期生は、国公立志望者が多く、国公立大現役合格数は過去最大の合格者を出すことができました。

特に東京外国語大学は４名とこれまでで最多の合格者がでました。

また、筑波大、埼玉大、名古屋大に初めて合格者が出ました。筑波大、お茶の水女子大にはＬＷＰ（ライフ・ワーク・プロジェクト）での研究を活かし、高校の成績評価によるＡＯ入試に合格した生徒がいました。

部活動、学校説明会での講演、文化祭（脚本演出）など学校活動に精一杯取り組み、推薦で埼玉大に合格した生徒もいました。

このように本校の教育活動が大学進学にも活かされていました。

過年度の２・３期生も国立医学部、東北大学、九州大学など難関大学に志望を貫き通して合格を勝ち取りました。

（2019年3月25日時点）

１　国公立大学及び国公立医学部・私立大医学部

国公立大学	4 期生	3・2 期生	計
北海道大学	2		2
弘前大学		1	1
東北大学		1	1
筑波大学	2		2
埼玉大学	1	1	2
お茶の水女子大学	2		2
東京大学	1		1
東京医科歯科大学	2		2
東京外国語大学	4		4
東京学芸大学	1	2	3
東京芸術大学(美術)	1		1
東京工業大学	2		2
東京農工大学	5		5
電気通信大学	1		1
一橋大学	3		3
横浜国立大学	3		3
千葉大学	1		1
信州大学	3		3
新潟大学	1		1
名古屋大学	1		1
九州大学		1	1
長崎大学		1	1
首都大学東京	7	1	8
横浜市立大学	2		2
都留文科大学	1		1
その他	3	1	4
計	49	9	58

上記のうち医学部	4 期生	3・2 期生	計
横浜市立大学	1		1
弘前大学		1	1
長崎大学		1	1
計	1	2	3

私立大学医学部	4 期生	3・2 期生	計
埼玉医科大学	1		1
杏林大学	1		1
国際医療福祉大学		1	1
計	2	1	3

２　私立大学（医学部以外）

私立大学（医学部以外）	卒業生計
早稲田大学	14
慶應義塾大学	7
上智大学	11
東京理科大学	11
明治大学	27
青山学院大学	11
立教大学	10
中央大学	28
法政大学	34
学習院大学	2
成城大学	2
成蹊大学	6
國學院大学	6
明治学院大学	1
武蔵大学	2
芝浦工業大学	7
日本大学	29
東洋大学	10
駒澤大学	10
専修大学	6
津田塾大学	1
東京女子大学	2
日本女子大学	2
東京農業大学	3
私立大(医学部以外)計	357

３　海外、短大、専門等

海外、短大、専門等	4 期生
戸板女子短期大学	1

４　就職

就職	4 期生
東京都市町村職員共済組合	1

注）４期生　　（現役のみ　卒業生 146 名）
　　３・２期生（過年度卒業生）
　　合格者数：複数大学の合格者は重複計上

インタビュー　「早川　直樹さん」

サッカーが好きだから　－好きなことを人生の中心に－

平成 30 年卒（中等３期生）　足立 晴菜

早川直樹さん

ワールドカップや数々の試合で日本中を興奮させて来た、サッカー日本代表・サムライブルー。その活躍には、スタジアムでプレーする選手だけでなく、選手を支えるコーチの存在が、大きく関わっています。

今回、昭和56年に南多摩を卒業され、約20年間日本代表のアスレティックトレーナー、コンディショニングコーチを務められた早川直樹さんにお話を聞くことができました。

＊サッカーとの出会いから現在に至るまで

早川さんは、小学生の頃にサッカーと出会った。当時はプロスポーツといえば野球か相撲で、サッカーは決してメジャーなスポーツとは言えなかった。サッカーを始めた当初は、男子より先に身長の伸びる女子が強いばかりで、つまらなかった。しかしクラブチームのコーチに教わり、足でボールを扱うコツを知っていくうちに、次第に楽しさが芽生えていった。小学六年生の頃に初めて出た市民大会では、試合中ボールに２回しか触ることができず７－０で大敗して号泣した。試合で心揺さぶられて号泣したのは、この大敗と、しばらく後の市民大会で優勝したときの２回だけだというので、早川さんにとってこの試合はかなり印象深いものであったのだと思う。

中学では、クラブチームでサッカーを続けながらも、親しくなった担任の先生が顧問を務めていたバレーボール部に、誘われるまま入部した。当時は身長もまだ伸びておらず、なかなか試合に出ることはできなかった。その時の経験が、コーチとして選手の心に寄り添うための糧になっている。それでも早川さんは、「どうして先生は俺を使わないんだ」と憤ることはなく、その先生の魅力に惹かれるまま３年間バレーボールを続けた。

南多摩高校では、心に決めていたサッカー部に入った。当時のサッカー部はコーチもおらず、OBが入れ替わりで指導に来てはいたものの、しっかりとした指導体制は整っていなかった。しかし、早川さんの入学と同じ年に赴任してきた生物の長坂先生との出会いが、当時のサッカー部にとって転機となった。当時レフリーとして有名だったその先生が、入れ替わりで指導に来ていたOBの生田さんを正式にコーチとして迎え、コーチが週２、３回指導に来る体制を確立させたのだ。それからのサッカー部の練習は厳しかった。しかも学業を怠れば、先生からサッカーを取り上げられる。それは早川さんにとって、生活から色がなくなるようなものだった。しかし早川さんは、自分がうまくなるためだと知っていたから、その指導を嫌だと思ったことは一度もないと言う。「今考えれば自分は相当コーチを信じていたんでしょうね」と笑った。

早川さんは大きな怪我もなく１年から試合に出場し、順調なサッカー生活を送っていた。そしてキャプテンとして臨んだ、高校最後の都大会。その前半に、事件は起こった。横から来たボールでシュートを打とうと蹴り出した矢先、相手チームのゴールキーパーが向かって来て、同じくボールに向かって足を出した。その足はボールではなく早川さんのすねに直撃し、早川さんの足は折れた。相手のファウルだった。治療、リハビリ。日常生活を送れるようになるまで半年。再びサッカーができるようになるまで１年。数十年経った今も、足にその怪我の影響が出てきていると言う。しかしその話をする早川さんは、決して暗い表情ではない。足が折れたその瞬間から、次の試合出られるかな、と考え始めていたというのだ。その時すねを蹴った相手を恨んだり、サッカーがトラウマになったりすることはなかったのかと聞くと、全くないねと笑って答えた。「よく怪我で苦労したから、選手が同じ思いをしないためにトレーナーになったという人もいるけれど、自分はただ単純にサッカーが好きで関わりたくて、この職業を選んだんだよね」嫌みなく単純にサッカーが好きだと話す姿に、わたしは早川さんの強さを見た気がした。

早川さんはその後、なんとかしてサッカーに関わりたいと、最も関わり方として身近だった教職を目指したが、学業成績の面から断念。他の関わり方を探していく中でトレーナーという選択肢を見つけ、専門学校で資格を取得、現場で必要な知識を学んだ。

そしてその後、人生の道しるべとなる出会いが重なった。20 代後半Ｊリーグの開幕に携わったのち、30 歳でＪリーグが開幕。数年間チームのトレーナーを務めた。その頃はまだチームのドクターや先輩トレーナーから言われたことを実行しなければならないことが多く、それが自分の意思と違う場合の辛さはあった。

それからさらに数年を経て、早川さんは、夢だった日本代表のアスレティックトレーナーに就任した。「やっ

てやる」という気持ちで挑んだが、やはりミスはある。心配するサッカー協会に、「早川は大丈夫」と請け合ってくれた人もいた。しかし、当時給料はＪリーグよりも日本代表トレーナーの方が低い。家族のある早川さんは、金銭面の心配もあって、日本代表とＪリーグチームのトレーナー両立を考えていた。だが、Ｊリーグチームのドクターや先輩トレーナーの叱咤激励、早川さんの夢を早くから知っていた奥さんの理解と後押しで、日本代表トレーナー一筋で臨むことに決めた。「夢は口にしておくものだなあ」早川さんはそう笑った。
いざ始めてみると両立なんてとても難しい。仕事はいくらでもあった。早川さんは、そこから20年間の忙しい日々を乗り越え、今に至る。

＊インタビューを終えて

インタビューを思い返すと、一通り話してくださった早川さんに、ネガティブな言葉は一つもなかった。

高校時代の骨折やプレッシャーのかかる日本代表の仕事など、決して楽なことばかりではなかったはずの数十年間。早川さんは、「やりたいことをやっていたから、苦労だと思ったことはないね」と笑った。走ったらきつい。練習がきつい。そうした一時的な苦しみはもちろんあっても、本当に好きなことだったら、大きな意味での苦しみはないと言う。

また、終始早川さんが強調していた言葉がある。「出会い」だ。サッカーを教えてくれた小学生時代のコーチや中学バレー部の顧問、高校サッカー部の監督、コーチなど、その時代ごとにお世話になった人の顔が浮かぶと言う。早川さんのコミュニケーションは、人の良いところを見ることから始まる。人の悪いところを見ることなく、例えばどんな監督・指導者であっても、その人の良いところを見つけ、そこに対して自分は何ができるかを考えてきた。自分で出会いを探したわけではない。そうした不思議な巡り合わせを「幸せだ」と大切に考える姿勢が、これまで早川さんとサッカーを繋いできた。

この経験が、コーチとしての選手とのコミュニケーションに活きている。決して無理に引きずり込もうとせず、まず興味のある人に情報を提供して、徹底的にサポートする。その成果が出たら、今まで興味を持っていなかった人も自然と集まってくる。選手一人一人をしっかりと見ていることが伝わる立ち振る舞いで、自然と相手に話をさせていく。厳しいことを言わなければいけないときは、お前の能力を伸ばすためにサポートがしたいんだという気持ちを併せて伝える。その相手に合わせてまっすぐに会話をしていく姿勢が、これまで選手を支えて来たのかもしれない。

早川さんのコミュニケーションや、決してネガティブに捉えない姿勢からは、違う環境・職業にある人でも学べることがたくさんある。

どんな人でも、人それぞれの重圧や苦しみと戦っている。その状況を苦労と捉えるのか、出会いと捉えて活かすのか、それは一人一人に委ねられている。その選択は、本人にしかできないものだ。後から振り返ったときに「好きだから苦労とは思わなかったね」と迷わず笑えるようになりたいと思った。

最後に、好きなことが見つかっていない人へ。「好きなことに対しての関わり方は色々あるから、それが見えて来たらどう関わるかを考えることが大切。好きなことを人生の中心に置いておくといいよ」という早川さんのメッセージを、ここに贈りたいと思う。

「南多摩」略年表

明治41年　**「東京府立第四高等女学校」開校**
42年　校舎落成
44年　1期生卒業。同窓会創設
大正10年　校服改定
昭和3年　実科廃止。プール完成
5年　校服を洋服に改定
6年　旧校歌制定
15年　日本女子中等学校選手権水上競技大会で全国優勝
18年　都制施行、東京都立となる
20年　空襲により校舎全焼
21年　天皇陛下本校に行幸。修業年限5か年に復帰
第1回国大水泳競技で優勝。第1回合唱祭開催
22年　専攻科、第二本科新設。平屋建木造校舎再建
23年　新制高校「都立第四女子新制高等学校」となる
PTA発足。第3回国体水泳競技で総合優勝
25年　男女共学実施。**「都立南多摩高等学校」と改称**
校章・現校歌制定
30年　前東館校舎落成
33年　前体育館兼講堂、前西館校舎落成。創立50周年記念式典挙行。同窓会の名称を「あかね会」とする
42年　学校群制度実施
54年　制服制定。現東館校舎落成
57年　グループ制入学制度実施。海外帰国生徒学級開設
58年　現体育館落成
62年　横川楳子女史胸像再鋳
平成6年　現西館校舎落成。単独選抜実施
7年　東館校舎改修
20年　創立100周年記念式典挙行
22年　定時制課程閉課程。**「南多摩中等教育学校」開校**
27年　南多摩高校閉校。閉校記念式典挙行
28年　中等教育学校1期生卒業
令和元年　南多摩110周年・南多摩中等教育学校10周年記念式典挙行

南多摩高校出身のシンガーソングライター
「SIO」さん（昭和 62 年卒）―皆様の応援をお願いいたします！―

昭和 35 年卒　土方 聖子

SIO さん

昭和62（1987）年卒業生の小塩晶人（こしおあきひと）さんについて是非皆様に知っていただきたく、ご紹介をさせていただきます。

小塩さんは、シンガーソングライター「SIO」（シオ）として多摩地区を中心に活動をしている方です。

同じ南多摩高校の出身として小塩さんを応援したいとの思いで、今回ご紹介の場を頂戴いたしました。

小塩さんは大学時代に音楽と出会い、レコード会社主催の全国大会で評価を得ながらも、卒業後はシステムエンジニアの職に就いていましたが、20 代後半で「ヤマハ音楽振興会」主催の全国大会に出場され、最優秀歌唱賞を受賞したことを機に、本格的に音楽活動を開始し、現在は全国で年間約 200 ステージのライブ活動の傍ら、多摩地域に根差した様々な活動もされています。

なかでも、出身である日野市の風景と思い出を歌った曲「僕らの町」は、新聞の地域版やケーブルテレビなどにも取り上げられ、市内の中学校合唱部との共演や、最近では小学校でのミニライブなども行われています。

小学校でのミニライブ

また、日野市の福祉施設の依頼を受けて制作した楽曲「みんな大事な仲間たち」は、日野市の市民フェアや八王子市の福祉施設でもライブが行われてきました。八王子での商業施設やイベントにも参加されていますが５月６日（月・休日）に「たましんRISURUホール」（立川市民会館）小ホール（立川市地域文化財団共催）、６月９日（日）に「ひの煉瓦ホール」（日野市民会館）大ホールでのコンサートが予定されています。

私は娘に誘われ彼のミニライブに参加したことで、小塩さんを知りました。初めて聴いた時、とにかく歌声が素晴らしく心に染み入り、ライブ会場でギター片手に曲間で語るトークからも見える彼の感性の豊かさに心打たれ応援するようになりました。何しろ歌のうまさは抜群で、可能であれば東京多摩地域から年末恒例となっている「NHK紅白歌合戦」への出場も夢ではないと思うようになりました。

SIO さんのステージ

一人でも多くの皆様に「SIO」小塩さんを知っていただき応援くださいますようこの紙面がきっかけとなりましたら幸いです。

よろしくお願いいたします。

【SIOホームページ】
http://sio.or.tv/

【コンサート】

■SIO 立川コンサート
日程:2019 年 5 月 6 日(月祝)
時間:開場 13:00/開演 13:30
会場:たましん RISURU ホール(立川市市民会館) 小ホール
料金:3,000 円
チケット販売:RISURU ホール窓口、ローソンチケット（L コード:72020）

■SIO「僕らの町コンサート」
日程:2019 年 6 月 9 日(日)
時間:開場 14:00/開演 15:00
会場:ひの煉瓦ホール(日野市民会館) 大ホール
料金:前売 3,000 円/当日 3,500 円
※学生・シルバー割（65 歳以上）1000 円引き、小学生以下無料
チケット販売：日野市民会館、七生公会堂、日野社会教育センター、チケットぴあ（Ｐコード:145-312）、ローソンチケット（Ｌコード:71308）

【Music Video】
インターネットにて「SIO　僕らの町」で検索していただくと、無料で公開中の動画をご覧いただけます。

先輩に学ぶ　早川直樹氏（昭和 56 年卒）

サッカー部ＯＢ　母校の進路講演会で高校生に熱血指導！

昭和 51 年卒　生田 武美

毎年、あかね会では母校のために各種サポート事業をしています。今回は、同窓生の中から活躍している人材を紹介し、生徒の今後の進路について学んでいただく企画を南多摩中等教育学校教職員の方々と協賛し開催しました。

平成30年11月21日（水）14：20～、母校の多目的教室にて第４学年生徒（高校１年生）149名（男子69名、女子80名）を対象に、『南多摩卒業生の生き方を学び、自己の生き方・在り方を考える。』と題して、サブタイトル『スポーツの素晴らしさ！　仲間の大切さ！　大きな目標を持とう！』という内容で講演を行いました。

講師は、日本サッカー協会SAMURAI BLUE（日本代表）コンディショニングコーチ早川直樹氏（昭和56年卒、57歳）です。

早川直樹氏

～早川氏の講演内容について～

講演会は、田村和夫君の司会で始まり、非常に落ち着いた雰囲気で丁寧な司会ぶりは早川氏も感動していました。

これまでのサッカーワールドカップ日本代表選手の様子を動画で紹介しながら、「スポーツの素晴らしさ」サブタイトル（大きな目標を持とう）という内容で進められました。

【映像１】2018年W杯ロシア大会での選手のウォーミングアップの様子が映し出され、試合前の選手のコンディションを整え士気を高めている早川氏の様子を見て、いかに早川氏は日本代表における重要なポジションで仕事をしているのか、認識しました。

会場の様子

【ここで自己紹介】早川氏は小学校のころサッカーに出会い、日野第二中学校から南多摩高校（当時は71群）に進学しサッカー部へ入部、キャプテンを務める。高校三年生の９月、高校サッカー選手権大会（最後の都大会）での試合中に相手選手より足に強烈なスライディングタックルを受け負傷退場し病院に運ばれた。骨折（全治三ヶ月）。体育の教師を目指していた夢は、この時の怪我で断念する。気持ちを切り替え、どうにかサッカーに携わりたいとの思いから、東京衛生専門学校（卒業後もう一つの学校）に進学し、トレーナーの道を歩み始めました。当時は、学校で理論を学び現場で実践を学ぶために、いろんなスポーツチームに関わり経験を積ませてもらった。

最初に（専門学校卒業後）トレーナーになったのは、23歳の時、女子サッカー日本代表トレーナー就任。その後、30歳でＪリーグが開幕し、ガンバ大阪、ジェフユナイテッドのアスレティックトレーナーに就任。36歳の時、日本サッカー協会（ＪＦＡ）と契約し、各種のW杯と８人の代表監督のもと活躍する。その時に外国人監督の考え方や世界と日本の文化の違いを学び、経験を積んだ。（２児の父）

【映像２】2010年W杯南アフリカ大会ベスト８決定戦（パラグアイ　０－０）での駒野選手のPKを外した場面。「駒野選手のPKは他の誰よりも上手かったが、大事な場面で失敗した。」

この場面を通して、「挑戦に失敗やミスはつきもの、成功より失敗から学ぶことの方が大きい」と指導されました。

【映像３】2014年W杯ブラジル大会の内田選手が、怪我から復帰して得点を入れた場面。「今まで当たり前のようにプレーしていたが、怪我で苦しい時を経験したことによりトレーナーの存在や周りの方に支えられていることを知り、感謝する気持ちがより強くなった。」

【映像４】2018年W杯ロシア大会で川島選手のミスに対するメディアからのバッシングを受ける。「チームスポーツで仲間が苦しんでいるときにこそ助け合うことが大切」

【映像５】2018年W杯ロシア大会のベルギー戦での乾選手。乾選手が試合後泣いていた場面で付き添っていたのが岡崎選手。二人は大会中同部屋で過ごし、岡崎選手は怪我のためこの試合に出場できなかったが、この試合に勝てば次の試合に岡崎選手を出場させることができたのに敗退。果たせなかった悔し涙に触れ、「仲間を思いやる心の大切さ」を指導。

早川氏は、これらのことを踏まえて、後輩に以下の４つのエールを送った。

① 目標を持て！（近い目標は小さくてもよい、少しずつ目標を大きくしていくこと）
② 起きていないことを心配するな！（心配していても何も始まらない）
③ 挑戦しろ！（自分がやりたいことをトコトンめざせ）
④ 前へ！先に進め！（とにかく前へ･先へ進んで行け）

【映像６】最後に、これまでのW杯の名場面集を「みんな空の下」（絢香）のBGMにのせて紹介し、人と人とのつながりがいかに大事であるかを訴えました。

そして、JFAが推奨する「リスペクト」の言葉を引用して、これからのさまざまな人生において相手を尊重する心、友人を大切にすること、他者を思いやる心を持って自分の進む道に生かしていくようにと今回の講演を締めくくりました。

花束贈呈の杉君

この後、３名の生徒からの質問があり先輩らしく親しみを込めて回答し、会場も暖かい雰囲気につつまれました。

最後に、司会の田村君よりお礼の言葉があり、杉太陽君からは花束の贈呈がありました。早川氏が控室の校長室に戻ると、９名のサッカー部の後輩（４年生）諸君が訪れ、歓談と記念撮影をされました。

司会の田村君

サッカー部員と

あかね会事務局

今回の講演は、学校側からも充実した内容との評価を得ており、あかね会は今後も活躍している同窓生のみなさんの情報収集に努め、母校に貢献できるよう活動していきます。

【歴史発見】

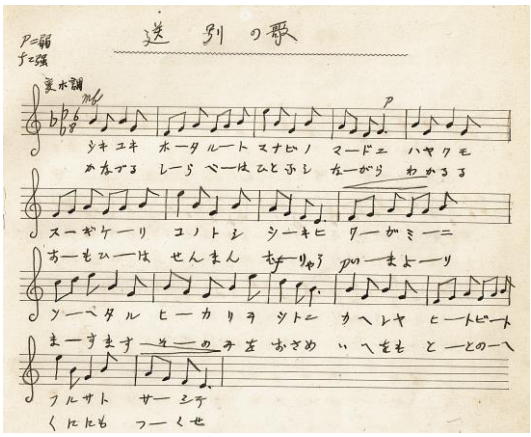
野矢トキ先生の音楽の授業

実践女子大学生活文化学科助教　越山 沙千子

野矢トキ先生（1890-1945）は、現在の東京藝術大学音楽学部の前身である東京音楽学校を卒業し、大正８年から昭和20年8月2日の八王子空襲で亡くなるまで第四高女で音楽を教えていました。本号では、前号の【歴史発見】「第四高女時代の音楽教諭野矢トキ先生」のその後の調査結果をご報告させていただきます。

歌習得までのプロセス

音楽の授業は講堂で行われ、教科書は使用せず、野矢先生自身が選曲して授業に取り上げていました。歌習得までのプロセスは、①野矢先生が口頭で伝える音名と音符の種類を『音楽ノート』に書き、旋律（メロディー）を完成させる（例：ド・四分音符、レ・八分音符）。②旋律を歌う。③野矢先生が口頭で伝える歌詞を書き入れる。④曲のタイトルが伝えられる。⑤歌詞をつけて練習する、というものでした。現在の中学校や高等学校の音楽の授業では考えられないハードなものだったと思います。記譜の時間、生徒たちは先生の説明に置いていかれないよう、必死でノートに書いたということです。書ききれなかった場合は、授業後に音楽が得意な友人のノートを写させてもらったといいます。



掲載した楽譜は、野矢先生のお嬢さんで、昭和11年卒業生野矢和子さんが書いたものです。《送別の歌》は、卒業式で在校生が歌っていたそうです。

記譜、歌唱の基礎となる楽典の授業

授業では時々、音楽の基礎的なルールである楽典も扱いました。記譜から始まる歌の習得と相まって、第四の生徒は自力で読譜できるレベルに達していたと思います。

野矢先生は、日本音名（ハニホヘトイロ）だけでなく、ドイツ音名（C（ツェー）、D（デー）、E（エー）、F（エフ）、G（ゲー）、A（アー）、H（ハー））も教えていました。また、ノートには「ト音記号」と「トジ記号」、「ヘ音記号」と「ヘジ記号」を併記していたり、休符を「休止符」と書いていたりし、現在は使われなくなった用語の言い回しが見られます。拍の数え方には、「手むち」による「拍節法」や口による「呼節法」、足による「踏節法」が挙げられています。

卒業生のエピソード

多くの生徒は、忙しく大変な授業でありながらも、新しい曲との出あいを楽しんでいたようです。ある卒業生は授業で歌詞を書きながら、「こんな内容、女学校で良いのかしら？」と驚きながらも、教えていただけてとてもうれしかったと仰っていました。良妻賢母教育を受けている生徒にとって、オペラは驚くような題材が多くありますが、当時の日本では西洋音楽が「高級」音楽とみなされ、西洋音楽ならば許される風潮があったため、校内で問題視されることがなかったのだと思います。また、「今、楽典の試験をやったら皆さん０点でしょうね」と笑顔で仰る姿が印象的だったというお話もありました。音楽学校時代から楽典が得意であった野矢先生らしいエピソードだと思います。

おわりに

これまでの調査により、野矢先生の教育が卒業生の音楽とのかかわり方や子どもたちの洋楽受容や教育に影響を与えていたことを窺い知ることができました。卒業生が生活のふとした瞬間に習った歌を口ずさんでいたり、子どもと一緒に歌っていたりしたこと、卒業生の子どもが流行歌は「良くない」と叱られたエピソードなどから、野矢先生の教え子たちが家庭や地域における文化形成の担い手として、重要な役割を果たしていたのではないかと考えられます。教育の内容は時代とともに変化し続けますが、教育の重要性はいつの時代も変わらないと改めて感じます。

前号に記事を掲載していただいたことで、卒業生の方々から多くの反響をいただきました。お手紙をいただいたり、直接お会いしてインタビューさせていただいたりし、活字資料だけでは分からなかったことを明らかにすることができました。さらに、前号の記事を偶然見つけてくださった野矢先生のお孫さんから連絡をいただき、お会いすることができました。こうしたご縁をいただきましたあかね会の皆様に厚く御礼申し上げます。今後もご存じのことがありましたら教えていただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

連絡先：南多摩同窓会あかね会
事務局E-mail：mail@akanekai.org
または、越山E-mail：koshiyama@akanekai.org

南“多摩”同窓生「大“多摩”」で巡り合う

昭和44年卒　井上　務　　昭和49年卒　富川 多津子

「大多摩」とは？現在は青梅、あきる野、福生、羽村の各市と瑞穂、日の出、奥多摩の3町に加え、桧原（ここまでは東京都）そして山梨県の小菅、丹波山の3村を含む広大な地域を指しています。命名は「我以外皆我師」で有名な文豪・吉川英治とされています。

その「大多摩」を冠した「一般社団法人・大多摩観光連盟」のガイドを募集する会合で私の前の席に座っていたのが富川さんでした。富川さんの文章に書かれている通り、その時は同窓生とは思ってもいませんでした。富川さんはとにかく元気、初めてお会いした時も「井上さんってもしかすると新聞によく投稿している方？」と気軽に話しかけてくれました。とにかく行動的、寒い冬でもちょっと動いたら「熱い！」と叫んだりします。ガイドとして秋川の清流沿いを歩いていると「ザブンと飛び込んで泳ぎたい！」と言い出します。保育士としての生活が長かったからでしょう、還暦は過ぎたはずなのに気分はきっと今でも「お子ちゃま」なのかもしれません。絵本「ぐりとぐら」は暗記するほど子供たちに読んであげたそうです。「ぐりとぐら」を読み聞かせて貰った多くのお子さんの中には「南多摩」卒業生や在校生、そしてこれから難関「南多摩」を目指す逸材がいるに違いありません。広報「みなみたま」を手にした方の中に「富川先生って南高！？」と驚く人がいるのでは？と密かに期待しているところです。それが現実になったら、それは間違いなく間もなく創立110周年を迎える母校が刻んできた歴史の賜物です。もし、そのような方がいらっしゃいましたら是非とも富川先生に連絡して旧交を温めてみてください。

写真①　武蔵五日市駅前で

写真②　観光ガイドの名札

さて、掲載された写真①は平成30年9月某日、武蔵五日市駅前で撮ったものです。この日は大悲願寺や横沢入、正一位岩走神社、小峰公園、広徳寺、阿伎留神社等を巡ってスタート地点の武蔵五日市駅に戻る約10ｋｍを歩くという内容でした。イベントのお知らせはＪＲの駅などにあります。会員は500円、非会員は700円というリーズナブルな参加費です。ガイドは写真②にあるような名札を付けています。もし、井上、富川という名前を見つけましたら気軽に声を掛けてみてください。また、参加されなくても定員50名で募集しておりますのでそのくらいの集団が赤い帽子を被ったガイドに案内されて「大多摩」地域をゾロゾロ歩いていたらその中に私たち二人がいるかもしれません。「広報、見たよ！」とでも声を掛けて頂けたら幸いです。最近のイベント情報を掲げてみます。「秋の長淵丘陵をのんびりと」「そうだ　羽村市動物公園　行こう」「霞川と富士見百景」等です。年末には会費はちょっとお高くなりますが会員2000円、非会員2500円で「いも煮会」が行われます。同窓生の酒蔵である野崎酒造の「喜正」をはじめ「大多摩」地域にある五つの酒蔵のお酒がいっぺんに飲めるコーナーもあります。五つの酒蔵で作られた5種の酒粕をブレンドした甘酒は絶品でした。五蔵の酒粕でできた甘酒を飲んで「五蔵く（極楽）」と寒～いオヤジギャグで拙文を終わります。くだらないダジャレを言っているのはダレジャ！そんなシャレはよしなシャレという声がアチコチから聞こえておりま～す。

井上　務

私は昭和49年（1974年）3月に南多摩高校を卒業しました。あまり勉強には熱心な生徒ではなく、文化祭に率先してクラスの出し物を計画したり、卒業アルバムの制作に夢中になってクラス中を取りし切るようなイベント好きな生徒でした。学校帰りには時々は本屋に寄ることもありましたが、八王子駅周辺や立川で途中下車して友達と喫茶店に寄ることがしばしばで、その時代の南校女子の流行は「マロンパフェ」と「クリームぜんざい」でした。ピザを初めて食べたのもこの頃でした。

卒業してからは短大の保育科を出て保育士となり 38 年間保育現場で働きました。定年 2 年前に退職しましたが退職後どのように過ごそうかと悩むことは全くなく、今思えば高校時代のイベント好きの性格がそのまま変わらなかったようで、あれこれと好きなことをやって楽しんでいました。そんな時偶然に（一・社）大多摩観光連盟というところの観光ガイド募集を市の広報で見つけ迷わず応募しました。その研修初日に井上務さんに初めてお会いしました。実は「井上務」というお名前は以前から存じ上げていました。数年前から新聞の投稿欄に何度もお名前が載っていてしかも住所が同じ青梅市の隣の地域だったのでよく覚えていたのです。しばらくは「新聞に載っていた井上さん」としてお話ししていたのですが何度かお会いするうちに同じ南多摩高校卒業生だということがわかりお互いびっくり。同時期に在学はしていませんでしたが共通の話題もたくさんあり話が盛り上がりました。大多摩観光連盟ガイド会では同じチームに所属しています。実は私はガイド研修を始めた時に「困った」と思ったことがあります。イベント参加者の道案内をするぐらいの気軽な気持ちで応募したガイドの仕事でしたが、研修生のほかの皆さんは植物や山や神社仏閣などとても詳しい人ばかりで経験もある方々でした。全くの初心者は私だけ？という状態でした。もちろん井上先輩は昆虫、植物は勿論、雑学から駄洒落まで、盛り沢山の引き出しをお持ちでした。イベント参加のお客さんに対していつも笑顔で楽しく分かりやすい説明をされているので、未だに初心者に近い私はいつも先輩をお手本にさせてもらっています。下見で井上さんに教えてもらったことを本番ではあたかも自分で知っていたかのようにお客さんにガイドすることもしばしばです。そして今まで関心がなかった分野も必要に迫られ勉強するようになりました。ただ残念なことに年齢と共に一回や二回の勉強ではすぐ忘れてしまうのです。あの時代に喫茶店に寄り道しないでもっと幅広く勉強しておけば今頃もう少し優秀なガイドになれていたかもしれませんね。仕方がないのでこれからも井上さんの知識をこっそり盗みながら「明るく元気にお客さんの気持ちに添ったガイド」を目指してやっていきたいと思っています。

同窓会の皆さん、大多摩観光連盟のイベンに参加された時はぜひお声かけ下さい。拙いガイドですが一緒にウオーキングを楽しみましょう。

富川　多津子

先輩の背中を追い、世界へ挑戦（チャレンジ）

平成31年卒（中等4期生）　設楽　竜士

私にとって、南多摩での学校生活は自分の軸となるものを手に入れられる機会となりました。それは、勉強で得た知識だけではなく、部活動や授業中の先生方の何気ないお話まで含めてです。

ひと際大きな軸となるものは、陸上部の先輩の存在です。中等教育学校になったことで、本来なら出会うはずのない３年、４年上の先輩方と共に活動をすることもありました。中学生にとっての高校生は、年の差だけでない「人間としての大きさ」、「こうなりたいなというお手本」をみせてくれ、自分の理想像になりました。そういった先輩方との出会いが自分の成長の糧になり、おそらく将来の指針にもなるだろうと思います。自分が成長できた要因は、授業や学校行事、部活動などの、自分を取り巻く人間関係であり、また自分も誰かの成長を刺激していたのかなと思います。

南多摩生活最後の年、これまでの考え方が変わる出来事がありました。６年まで活動を続けてきた陸上部の友が関東大会への切符をつかんだのです。私は「おめでとう」と言いましたが、感動のあまり、それ以上の言葉が出てきませんでした。これまで他人のことを自分のことのように喜ぶことはなかったので、不思議な感情でした。おそらく６年間という共に過ごした年月と、一緒に辛いトレーニングを乗り越えて高めあってきたという経験、それは自分と他人という垣根を超えることができるほどのものだったのだなと振り返ってみるとわかりました。

そして、クラス代表として臨んだ文化祭の演劇では、あかね会のご支援のおかげで、劇団員をお招きして、演技の指導をしていただきました。舞台での立ち振る舞いや劇への姿勢など、普通ならば知ることのできないことを教えていただきました。このような機会を用意していただいたからこそ、自分たちにとって最後の文化祭がより一層思い出深いものになりました。改めてこの場をお

借りして感謝の気持ちを述べさせていただきます。私たちも、今後後輩たちがこのような機会に触れられるように、母校を卒業した後も何らかの形で支援をすることで、恩返しをしていきたいと思っております。

私は将来、総合商社で働き、日本と世界をつなぐ仕事をしたいと考えています。南多摩という環境が自分に広い選択肢を与えてくれました。優れた人にたくさん出会って、井の中の蛙にならず、上へ上へと努力することができました。そして、世界を相手に英語を使った仕事をしてみたいと思わせてくれました。先輩方が築いてきた、この自己研鑽できる南多摩という環境が今後も続いていくように願っています。

自分がやっていることに対して、悩んだり、ためらったり、迷うかもしれません。そんな時に、南多摩で学んだ、単なる知識だけでない多くのこと、友、そういう自分を支えてくれるものを信じて、これからも進んで行こうと思います。

４年連続で南関東大会進出

他人(ひと)を思いやる心を学んだ「太鼓部」

平成31年卒（中等4期生） 幡野　茜

私は南多摩中等教育学校での六年間の生活から多くの刺激を与られて、大きく成長できました。決して卒業までの道のりは平坦なものではありませんでした。勉強量の多さに心が折れそうになり、部活動との両立の難しさに頭を悩ませ、試行錯誤しながら自分にあった勉強方法や生活習慣を身につけて、ようやく今に至ります。自分をここまで強く成長させてくださった学校の先生方にとても感謝しています。

学校生活の中で、胸を張って「頑張った！」と言えるのはやはり６年間の太鼓部での活動です。太鼓部の素晴らしさは、ただ太鼓の演奏が上手くなるように体を鍛え、練習するだけでなく、人との繋がりを重んじながら、生きていく上で大切なことをたくさん学ばせてもらえるところだと思っています。顧問の今川先生は部活動の中で、私たちに素晴らしい教訓をたくさん教えてくださいました。

その中でも特に私が好きなのは「感謝・素直さ・思いやりを大切にする」という教訓です。この教訓は太鼓部の活動に留まらず、普段の生活でも非常に重要なことであるからです。いつも私を支えてくれている方々に対して、その方々の存在を当たり前と思わずに、感謝の気持ちを忘れずに過ごすことは素晴らしいことだと思います。

また、どんな時でも素直でいることで人との繋がりが広がりますし、欠点を受け入れて修正することで、より自分を成長させることができるということも学びました。最後の思いやりという言葉が私は一番好きです。人を思いやることは、相手だけでなく自分も良い気持ちになります。日頃から部員同士で思いやることはもちろんですが、太鼓の演奏でも観客の方々を思いやる心をもつかもたないかでは聞こえ方が大きく違います。これほど思いやりというのは大きな力を持っているということを知りました。

私は副部長を務めていたのですが、その役割を通して、周りの状況を確認し、その時点で部員に何が不足していて何を指示すればいいのかを判断するという姿勢を身につけることができました。また部活動の中で自分の感想を皆の前で述べる機会が多くあったことによって、自分の伝えたいことをためらいなく皆に伝えられるようになりました。夏の八丈島への合宿では、現地の方々と交流することで人と人との繋がりの温かさを教えてもらいました。それだけでなく、仲間との団結することの楽しさも教えてくれたのは太鼓部での活動です。これもあかね会からいろいろな場面でご支援をいただいたおかげだと深く感謝しています。

このような貴重な経験から学んだたくさんの教訓を糧に、大学に進学後も周りの人々との繋がりを大切にしながら、自分の興味のあるものは躊躇せずに納得がいくまで研究していきたいと考えています。普段から私を支えてくれている家族に感謝の気持ちを忘れずに、素直な気持ちで新たなことに挑戦し、できる限り多く周りの人達を思いやりながら、より一層自分を成長させたいです。そして、南多摩での生活のように最後に「やりきった。大きく成長できた。」と思える大学生活になるように努力し続けます。

なぜ「榮全上人」を追ったのか？
・・・そしてその結末は？

昭和41年卒　仏法山 興林寺 住職　阿川 雅俊

初めて、投稿させて戴きます。昭和41年卒の阿川雅俊と申します。

私の高校生活は体育館でボールを追っている思い出ばかりでしたが、先生方には大変お世話になり可愛がって戴きました。小林同窓会長とは現役の時バスケット部に所属していたご縁でよくお話しさせていただきましたが、母校の為に連続して重職をこなし、活躍される姿を頼もしく感じておりました。

私は20年程前までは公立中学に勤めておりましたが、30年程前、40代前半で父親を亡くし、寺の後を継ぐ事になり、自坊の為に何が出来るか考えました。小さいながら堂宇は整っていたので、戦災で失った「歴史」を掘り起こしたいと漠然と思っていました。

そんな時、小学生の息子から「夏休みの自由研究」の相談を受け、偶然、歴代住職の墓の一つに榮全上人の略歴が彫ってあるのを思い出し、その「地名や修行の場所を確認して現代語にしてはどうか」と答え、二人で最後の二重連特急で信越線の碓氷峠を越え長野へ行ったのです。

榮全上人は 230 年程前の方で、長野県の飯山市から 15 歳で江戸へ出て 15 年間程修業し、76 歳で私共の寺で生涯を終えました。幸い刻字の地名や寺院名で大まかに一生を追う事が出来ました。息子はそれで終わりましたが、私はこのまま終わるのは勿体ないと思い 20 年程前から自分なりに調べ、榮全上人と同じ行程を歩き始めました。とは言っても全く素養も無くどうして良いか分からない状態でした。その後先輩や友人のお陰で存在しない筈の記録などが次々に見つかり榮全上人の一生が明らかになって行ったのです。

入寺帳（表紙）

調べて行く内に東京タワーの直ぐ下にある「浄土宗大本山増上寺」の経蔵（お経を保管するお堂）に、徳川幕府により僧侶の修行の為に指定された学問所『関東十八檀林』の『入寺帳』（現在の学校の生徒の入学記録である学籍簿）の一部分が保管されている事が分かりました。江戸時代の小僧さんの記録ですから自坊の代々の住職の記録が出てくる事を期待して、初めに墓石に彫られていた深川の霊巌寺という寺の『入寺帳』（2,166名分）をデータ化する事にしました。何時、何才の、誰が、何処の、何と言う寺の、何と言う師僧の弟子で（例・文久三年武蔵國多摩郡八王子村子安〇〇寺住職義園弟子〇〇世壽十五才）、今その寺がどうなって居るかという項目に沿い整理しましたが、筆で書いてある記録で必ずしも楷書で書かれていません。得体の知れない文字を相手に何時終わるとも知れず、しかも余り読めない中で10年程黙々と作業を続けました。しかし、毎日が新発見で、たった一文字が分からず考え込んだり、謎が解け喜んだりと、夢のように楽しい時間でもありました。キーの押し間違いでデータが消え、全身から力が抜ける程衝撃を受けたことも２回程ありました。その時は２、３日放心状態になり、作業が手に付きませんでした。

入寺帳（記録の例）

調べ始めてその人数の多さ（増上寺分だけでも23,811名）、散逸した記録の多い事（記録を整理して感じた範囲でも、先の戦災や、明治維新の混乱の中で、八割は失われたのではないかと思った）他にも17ヶ所の学問所が関東近辺に有る事など次々に分かり、是は「途方も無い事だ」「手に負えない、無理だ」と思いました。しかし、せめて増上寺分だけでも確認しようと、江戸期の文字を

読む練習を始め、４、５年かけてやっと八割がた読めるようになりました。それでも不十分でしたが、何とか解釈ができるようになり10年近くの歳月を費やし一昨年増上寺分をCDのデータにし、発行する事が出来、少し遅れて残りの檀林のデータ15,000人分も完成し、鎌倉の光明寺という本山から今年の２月にCD化し発行できました。

入寺帳（記録の例）

パソコンが有るお陰で、エクセルを使い私の様に素養のない人間でも纏められましたが、作っている内に次第に事の重大さに気付きました。徳川幕府の施策として江戸時代260年余りの間、僧侶を目指す人は日本中から集められ十五年間も関東圏で修業をし（驚く事に、15年間の修行中に粗半数の修行僧が、厳しい環境の中で命を落としている）僧侶の資格を得たのです。その結果、僧侶となる人たちは出身地の方言に加え、現在の標準語に相当する関東圏の言葉を身に付けたのです。私は、その事に気が付きました。国許に帰った何十万人もの修行僧（他にも武士なども教えた）は、寺子屋を開き、多くの人に文字を教え、今で言う標準語を広めたのです。その結果日本語が統一され、多くの人が言語を理解し、外国の植民地に成る事も無く、その後の明治維新などの大きな変革にも対応出来る識字と言う教養を身に付け、今日の日本の大発展に繋がったのです。昨今、明治維新が一方的に美化されていますが、徳川幕府が「悪」で明治政府が「善」という構図は誤りだと思います。それは正に勝者の歴史であり徳川幕府は賊軍の扱いですが、江戸期の安定した260年余りの時間のお陰で多くの技術や精神文化が発展した事も事実ですし、多くが海岸の湿地であった江戸が当時世界有数の大都会になれたのも徳川幕府の多くの研究やその時代の人々の努力のお陰だと思います。確かに時代遅れになった封建制度は変革の時期に来ていましたが、徳川時代にも計り知れない功績が有った事を決して忘れてはいけないと思います。長く安定した江戸期に多くの精神文化や学問が興隆し、レベルの高い文化生活が送られるようになりました。そして究極の決断は、その成果の一大遺産である江戸の町や制度を失う事無く守った、将軍家の大政奉還という英断です。その後新しい日本が順調に始動、発展できたのは、和算や仏教哲学などの学問や築城などの技術の蓄積の結果に他ならないと思います。

江戸幕府が行政の末端組織として僧侶を使う為、寺社奉行まで作り一般の人々を支配する為に『宗門人別長』を作った結果、図らずも日本語が標準化されたのです。こうして一人一人文字を理解し、考えて行動出来る自立した国民により下支えされた、より民主的で安定した国家が生まれたのです。その後の日本の発展は真剣に努力する姿勢に支えられた国民性により、近代国家として大きく歩みだしたことによるのです。

僅か15歳の少年が、僧侶になる修行をする為に全国から関東圏の学問所である寺（浄土宗関東十八檀林）に集まり、命を懸け修行をし、その結果日本語が共通語として全国に広まったのです。徳川家康は兎角≪ずるい≫≪冷酷≫≪狸親父≫等々の悪いイメージが定着していますが、本当はとても良く考え緻密な計算の上に行動をしていた人であったと思います。無理をせず、出来る時には思い切って決断した立派な指導者だったと思います。そして何より260年という、発展の元になる長い平和な時間をもたらしたのです。

入寺帳（記録の例）

学者でもないので個々の検証は不十分ですが、現在の日本語の統一、日本の発展は平和な江戸期の260年の経済興隆と修行僧の存在なしには不可能だったのです。私は、よく分からない江戸期の変体仮名や漢字を読みながら、間違いなく当時の少年僧の最低15年という長期の修行のお陰と確信しました。

素人が感じた事で、研究でも無く唯の直感ですが、こんな見方、考え方も有るという事をお気付き戴ければ幸いです。

合掌

あかね会と同窓会活動・母校支援について

◆ 平成30年度あかね会総会開催

平成30年5月20日（日）午前11時から、京王八王子駅前のホテル「ザ・ビー」において、あかね会定期総会が53名の参加で開催されました。

第１部の総会は、山口久美子副会長（昭和44年卒）の開会の辞に続き、小林幹彦会長（昭和45年卒）の挨拶がありました。南多摩中等教育学校の生徒は、不思議なことを探る「探究」活動を行い、探究をスパイラルして２～６年の活動に広げている。また、来年は母校110周年、中等教育学校10周年を迎えるので、将来30年、40年と同窓会活動が続けられるよう準備を進めたいとの挨拶がありました。

議事は、議長に常任委員の小山隆司さん（昭和36年卒）が選出され、平成29年度事業報告、決算報告及び会計監査報告について役員から説明があり、それぞれが承認されました。続いて平成30年度の事業計画案、予算案について説明があり、これらもそれぞれ承認されました。

次に、役員の改選が提案され、新たに堀竹充さん（昭和48年卒）が副会長に、野澤経子さん（昭和55年卒）が庶務に選出され、議事は終了しました。

総会の様子

第２部の講演会は、井上務さん（昭和44年卒）の進行により、青梅きもの博物館の館長をされている鈴木啓三さん（昭和31年生れ）が「和装と日本の伝統文化」の演題で約１時間の講演が行われました。

青梅きもの博物館は、青梅吉野梅郷の中心地にあり、200年前の土蔵に増築して建てられた民家風情の残る建物であり、皇室等の雑誌、散策ガイドにも紹介されているそうです。

鈴木館長は駒込和装学院学院長も兼ねておられ、先代館長・鈴木十三男氏の跡を継ぎ、貴重な宮廷衣裳や時代衣裳の収集を続けられ、500点の収集品を３か月ごとに内容を替えて展示しているとのことでした。特に、元梨本宮家の両殿下が大正天皇即位式に着用された衣裳を20数年前に頂戴したことがきっかけで、同博物館の収集が続くことになったそうです。

鈴木館長からは、衣服の機能の変遷を平安時代から江戸時代へとひも解き説明され、一人でも多くの人に日本の伝統文化である着物を見ていただいて、日本のきもの文化に思いを馳せていただきたいとのお話がありました。

鈴木さんによる講演

30 年 3 月卒業生

第３部の懇親会は、小林幹彦会長、森永比人美校長、石井真一PTA会長の挨拶に続いて、黒須隆一顧問（昭和35年卒）による乾杯の発声でスタートしました進行役は、平成３年卒の演歌歌手・伊達めぐみさんが務められその年卒業した新入会員２名から将来の夢を語っていただくなどしました。懇親会はまたたく間に２時間余りが過ぎ、恒例の校歌斉唱を大塚光代さん（昭和30年卒）、相談役の田中ミホさん（昭和35年卒）たちの先導のもとに高らかに歌い上げ、定期総会から懇親会までの会は、和やかなうちに無事終了しました。

◆ 高尾山納涼会の開催

平成30年8月18日（土）、あかね会納涼会が高尾山薬王院で開催されました。猛暑日が続いたこの年、暑さは少し和らいだ感はありましたが、高尾山でのひとときの納涼となりました。参加者は30名で、一般会員も7名の参加となりました。

納涼会に先立って、第２回常任委員会が浜中賢司副会長（昭和44年卒）の進行により、あかね会活動協力金の報告、９月の母校文化祭「南魂祭」の参加計画、今後のあかね会組織の改訂、110周年記念祝賀会の準備等の協議が行われました。

その中で、７月上旬に南多摩中等教育学校で東京オリンピック組織委員会による「五輪音頭」のキックオフが行われ、南多摩中等が都内で初めて実施されたことが、岡田貴夫副校長から報告されました。

正午から開催された納涼会では、高尾山薬王院執事の方から大山隆玄貫主（昭和28年卒）が体調を崩されていると報告方々、挨拶がありました。続いて小林幹彦会長の挨拶、石川和昭顧問（昭和36年卒）の乾杯があり、名物の「高尾膳」の精進料理を食べながら懇談会に入りました。

井上務副会長の司会で、昭和30年卒業の５名の参加者が紹介され、定期総会で講演をお願いした鈴木館長さんの青梅きもの博物館を訪れたときの様子などを語っていただきました。また、参加者の皆さんから近況報告などをしているうちに、和やかな納涼会が終了となりました。参加された方々の写真は、以下のとおりです。

納涼会参加者（高尾山薬王院の前で）

◆ 第110回「南魂祭」への参加

南多摩中等教育学校の文化祭「南魂祭」が、平成30年9月8日(土)～9日(日)に母校で開催されました。あかね会の会場は、西館玄関の階段を上がって直ぐの２階６Ｃ教室の展示と、東館１階のランチルームでの３期生による「あかね屋」飲食販売でした。

西館２階の展示コーナーでは、南多摩の歴史パネルの展示、卒業生による本等の展示、福島雪男さん（昭和35年卒）の写真展示のほか、中央にテーブルと椅子をセットし同窓生や訪れた一般参加者との交流の場を提供しました。また、アトラクションとして折り紙教室、バッタ作製教室を開催しました。

折り紙教室は、常任委員の中田君代さん（昭和37年卒）の指導により、鉛筆立て、小物入れ、ぽち袋を、子ども達が無心に楽しんで折っていました。棕櫚の葉を使ったバッタ等の作製は、井上副会長の指導のもとに、沢山の親子が次から次へとバッタ作りに勤しんでいました。

折り紙教室

棕櫚バッタ作り

東館１階ランチルームの「あかね屋」では、本年の卒業生がおにぎり・冷やし中華のほか、飲み物やかき氷などを販売し、人の列が絶えませんでした。

中等教育学校３期生による飲食店「あかね屋」

◆「先輩に学ぶ」の開催

平成30年11月21日(水)に母校の多目的室で、中等教育学校４年生149人に対して、「スポーツの素晴らしさ、大きな目標を持とう」との演題で、「先輩に学ぶ」授業が開催されました。講師は、日本サッカー協会SAMURAI BLUE（日本代表）コンディショニングコーチをされていた早川直樹さん（昭和56年卒）が務めました。

内容は別稿のとおりですが、サッカーに思いを寄せる講師が、後輩の前で熱く語ってくれました。

「先輩に学ぶ」の授業様子

◆ あかね会新年会開催

平成最終年、平成31年の1月19日（土）、京王八王子駅前のザ・ビー八王子において、昨年と同数の35名が出席して新年会が開催されました。

新年会に先立って行われた常任委員会では、①平成31年会報「みなみたま」第10号が４月に18,000部発行　②南高110周年・南多摩中等10周年記念祝賀会が10月31日に京王プラザホテル八王子で予定され、記念募金を４月の会報に同封、記念品・記念誌は９月頃に用意　③100周年基金は３月末をもって期間満了し、資金はあかね会に移行　④平成31年度総会は５月19日にザ・ビー八王子で開催予定などの協議が常任委員会で了承されました。

新年会は、井上務副会長（昭和44年卒）と生田武美常任委員（昭和51年卒）の進行で開かれ、浜中賢治副会長（昭和44年卒）の開会挨拶に続き、小林幹彦会長（昭和45年卒）が挨拶しました。「学力には進学実績など測定しやすいものと、測定しにくいものとがある。南多摩の人間力、心知体などは測定しにくい学力であり、どちらも大切にしなければ」と力説され、本年、筑波大学や首都大学東京に推薦入学となった生徒の例などを紹介されました。

次いで、永森比人美校長から挨拶があり、「生徒は素直で真面目、独特の良さがあり、教員が上手くサポートできている良い関係にある。生徒には勇往邁進、前に向かって進むよう」説いているとの話がありました。続いて、PTA石井真一会長が挨拶に立ち、あかね会の日頃の支援・応援に感謝していることや、110周年の会議であかね会副会長から「太鼓部優勝の手紙が届けられ嬉しかった」との話にホッコリしたことなど、お話がありました。

いよいよ乾杯の発声となり、黒須隆一顧問（昭和35年卒）から「母校が元気になるのは嬉しい。学業、スポーツ、太鼓部なども頑張っていて誇らしく思う」と挨拶され、おめでとうの祝杯が上がりました。

新年を祝して「乾杯！」

その後は、司会の生田委員が各テーブルを指定しながら、参加者の半数以上の方々から新春の抱負、近況などのインタビューが行われました。特に、母校の太鼓部顧問の今川健司先生（世界史担任）からは太鼓部が８の数字に縁の深いことが紹介されました。「今年は創部８年。創部当時は部員が８人。八王子の８。八丈太鼓の８。創部８年で部員80人。最初の都大会で８位」などと紹介され、３年前に都大会で優勝し広島大会に出場、昨年11月の都大会で優勝し、本年8月佐賀大会に出場など報告されました。

予定の時間はアッという間に過ぎ、大島富子相談役（昭和25年卒）、大塚光代常任委員（昭和30年卒）、田中ミホ相談役（昭和35年卒）等に校歌斉唱の先導役をお願いし、「多摩の郷に・・」の第四高女校歌、「湧水は・・」の南多摩高校・中等教育学校の校歌を声高らかに斉唱しました。また、田中相談役等の発案により、急遽、太鼓部の全国大会出場祝金を募り、参加者のご芳志を集め太鼓部に寄贈しました。

結びに、山口久美子副会長（昭和44年卒）の閉会の辞で、和やかに過ごした新年会は幕を閉じました。

参加者のインタビュー

◆ 平成30年度のあかね会活動紹介

平成30年度のあかね会活動は、５月の総会のあと、役員会、常任委員会を中心に協議して活動を進めています。平成30年度の開催状況は下表のとおりです。

あかね会常任委員会開催状況

回	議　題　等
役員会 5 月 12 日	○定期総会の開催 ○母校への支援計画
常任第 1 回 6 月 23 日	○総会・懇親会の反省 ○高尾山納涼会の計画 ○南魂祭への参加計画
常任第 2 回 8 月 18 日	●あかね会高尾山納涼会 ○南魂祭への参加計画 ○「先輩に学ぶ」の計画
役員会 11 月 17 日	○新年会の開催 ○あかね会会報の発行計画 ○母校の支援計画 ○110 周年祝賀会の計画
110 周年第 1 回 実行委員会 12 月 8 日	○実行組織の設置 ○記念祝賀会の実施計画 ○募金趣意書案の検討
常任第 3 回 1 月 19 日	●あかね会新年会 ○あかね会会報の発行計画 ○110 周年祝賀会の計画 ○総会の計画・準備
110 周年第 2 回 実行委員会 2 月 2 日	○記念祝賀会の実施計画 ○案内状の発送、会費の徴収 ○記念募金振込書等の検討
役員会 3 月 2 日	○110 周年祝賀会の計画 ○会報編集の進捗状況
常任第 4 回 3 月 23 日	○30 年度の事業実施状況 ○会報編集の進捗状況 ○総会の計画・準備

「南多摩110周年・中等教育学校創立10周年記念事業」を成功させよう！

南多摩同窓会あかね会 会長 小林 幹彦

◆記念祝賀会へのお誘い

昨年は、南多摩高校の前身である府立第四高等女学校が設立されて110周年を迎えました。また、今年は平成22年の都立南多摩中等教育学校創立10周年を迎えます。

これを記念し、南多摩中等教育学校では、10月31日に八王子市オリンパスホールにおいて記念式典が挙行されます。これには同窓会あかね会の一般会員が出席できないため、この日の夕方、京王プラザホテル八王子において、南多摩同窓会あかね会、南多摩PTA、南多摩PTA・OB会の共催により、記念祝賀会を開催する予定です。

創立 100 周年記念式典

あかね会会員の皆様には、今号の広報「みなみたま」に同封の「記念祝賀会参加希望等カード」の返信により、ご参加をお願いします。祝賀会の会費は、一人8,000円（学生は4,000円）とし、募集人員は250名程度の予定しており、定員になり次第締め切らせていただきます。

◆記念祝賀会の内容など

さて、記念祝賀会当日は、会場に第四高等女学校、南多摩高校及び中等教育学校のミニチュア版の制服を展示して、長い歴史を振り返るとともに、イベントとして、中等教育学校第１期生を中心にした有志による「和太鼓演奏」を企画しています。

なお、母校の太鼓部は、昨年11月に実施された東京都大会で優勝し、本年８月に佐賀県で開催される全国大会に出場することが決まっています。

創立 100 周年記念祝賀会

祝賀会の進行は、ラジオパーソナリティーとしても活躍される演歌歌手の伊達めぐみさん（平成３年卒）にお願いしています。定期総会の懇親会の司会などもされ、慣れた司会で会場を盛り上げていただけることと思われます。

祝賀会の参加者は、「記念祝賀会参加希望等カード」で申し出のあった方のほか、学校関係の招待者、学校教職員、PTA役員や会員、PTA・OB会の皆様、今回の記念募金に一定の寄付をお寄せいただいた方々等に対し、７月頃にご案内状をお送りする予定です。

◆記念募金のお願い

次に、記念募金については、今号同封の「募金趣意書」のとおり、１口5,000円で募金をお願いしています。

あかね会会員に加え、南多摩PTA会員（生徒保護者）にも声掛けし、目標額を２千万円として実施します。

募金の期間は、本年４月から12月までとし、４口（20,000円）以上募金いただいたあかね会会員の方には、母校が作成する「都立南多摩中等教育学校創立10周年記念誌」を進呈する予定としています。

また、記念募金の使途は、記念式典、記念祝賀会の開催費用、記念誌作成等の支援、母校への記念品（備品類）の寄贈、その他、今後の部活動や進学指導に必要な経費の支援などに活用させていただきます。

３万人にものぼる同窓会あかね会の会員（母校卒業生）は、南多摩高校を母体としてできた中等教育学校の発展を見守り、今後も支援を継続してまいります。

同窓生の皆様には、上記趣旨をご理解いただき、南高創立110周年・中等教育学校創立10周年の記念募金にご協力いただきますよう、お願い申しあげます

この太鼓が太鼓部のできるきっかけになりました。

これらの楽器は南多摩フィルを育てました。

創立 100 周年記念募金で母校に和太鼓と洋楽器を寄贈

A5判 176頁 1,800円＋税

天皇皇后両陛下のご訪問を賜わりました。㈱丸井での実践録、中小企業の障害者雇用や知的障害者・発達障害者の子育ての指針、就労支援者研修の参考書として幅広く活用されています。

常盤 正臣
（昭和31年卒）

注文は下記「ぶどう社」へ（送料無料）
TEL 03-5779-3844　FAX 03-3414-3911

学校法人片柳学園
東京工科大学
【昭和35年卒】
学長 軽部征夫　理事 黒須隆一

＜八王子キャンパス＞
〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1
TEL.042-637-2111(代)

＜蒲田キャンパス＞
〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22
TEL.03-6424-2111(代)

www.teu.ac.jp
併設校：日本工学院専門学校／日本工学院八王子専門学校

医療法人社団　大島会
大島耳鼻咽喉科クリニック
院長 大島 清史／副院長　澁谷　正人
大島 富子(昭和 25 年卒)
〒192-0046 八王子市明神町 4－5－9
TEL：042-642-8012
http：//www.oshima-ent.com/

不動産業（賃貸マンション・貸倉庫）
石田倉庫のアートな2日間
石田産業有限会社
代表取締役社長　石田 高章
常務取締役　石田 菊江(昭和27年卒)
〒190-0013 東京都立川市富士見町 2-32-27 石田産業ビル 2F
TEL：042-522-2406　FAX；：042-525-0483

診療時間［午前］9：30～13：00 ［午後］15：00～19：00（土曜は18:00まで）
糠信歯科医院
院長　糠信 安宏(南多摩中等教育学校歯科校医)
糠信 和代(昭和29年卒)
八王子市明神町4-2-9 昴ハイツ2F(京王八王子駅西口出口前)
電話：042-642-3131〔休診日：木曜・日曜・祝祭日〕

有限会社 保寿産業
代表取締役　小川 禎子
(旧姓 岸　昭和 31 年卒)
〒190-0023 立川市柴崎町1-9-32

病院、施設の給食品専門問屋
増田屋
株式会社 増田禎司商店
代表取締役　増田太郎／増田敦子(昭和34年卒)
〒193-0801 八王子市川口町 1415
TEL:042-654-2222　FAX:042-654-5049
http://www.masudaya.1965.com

高級オリジナルニット
色彩の魔術師
齋藤都世子作品ルーム
浅野 常子（昭和34年卒）
〒192-0904 八王子市子安町3-32-10-106
☎・FAX:042(646)9833／090-1422-1192

TKC. KFS 推進事務所
税理士法人 西東京会計
代表社員・税理士　加藤 晃(昭和38年卒)
〒192-0032 東京都八王子市石川町 733-4
TEL:042-644-1771　FAX:042-645-7372
http://www.tkcnf.com/ntk/

一級建築士事務所
株式会社 浜中企画
浜中 賢司（昭和44年卒）
〒193-0801 八王子市川口町 3411
電話:042(654)4325　FAX:042(654)6128
mail:hamanaka@tokyo.email.ne.jp

コンピュータソフト開発＆運用
（有）ライズ
代表取締役　中村 晋也(昭和53年卒)
〒192-0066 八王子市本町30-6（N-Twoビル3F）
電話:042-620-5425　FAX:042-689-4149

STATE STREET
1歩足を踏み入れれば、そこは外国！
たくさん聞いて話して自然に身につく英語をモットーにしております。
幼児～大人
野澤 経子(旧性 市川)昭和55年卒
〒192-0046 八王子明神町 4-2-10-403
南多摩高校前 ラーメン御殿 4F TAK 八王子
電話:090-4753-0268　E-mail:statestreet.english@gmail.com　HP:Statestreet.jp

S2 Sankyosha

刷新ing

お任せ下さい！印刷のすべて。

取締役副社長　野口　冨巳子（昭和35年卒）

有限会社　三共社

〒192-0041 東京都八王子市中野上町 2-29-1
TEL.(042) 625-8325　FAX.(042) 625-8369
http://www.san-p.co.jp

歌手業を軸に観光旅館業を行なっております！

富士五湖リゾート&ビジネス

富士吉田市

ホテルベル鐘山（かねやま）

Tel 0555-24-8888

山梨県富士吉田市上吉田 2318-1

「バナジウム鉱泉」大浴場
自慢の“霊峰めぐみの湯”

新曲発売！

「おっしゃる通り ごもっとも」

歌手 伊達めぐみ

南多摩高校
平成３年度卒業

（有）オフィスめぐみ・伊達めぐみ後援会事務局
八王子市中野上町 5-14-1　TEL 042-622-9932

明るい未来を拓く、元気な子供達を育てます。

社会福祉法人　相友会

浅川 長房西 諏訪

保育園

諏訪　のぞみ乳児園

理事長　村松　一恵（昭和 28 年卒）

法人本部〒193-0812 八王子市諏訪町５ TEL：042-651-4555

心のふるさと
祈りのお山

高尾山

薬王院　山主　大山　隆玄（昭和28年卒）

http://www.takaosan.or.jp

伊藤税務会計事務所

税理士　伊藤　仁教
伊藤　幸子（昭和32年卒）

〒192-0045 八王子市大和田町3－6－21
TEL:(042)642-2719　FAX:(042)642-5034

医療法人社団　三真会

勝田医院

泌尿器科・内科・外科

院長　勝田真行／勝田三枝子（旧姓石森　昭和33年卒）

〒193-0803 八王子市楢原町 556―1
電話:042(625)2727　FAX：042(625)2700
〔休診日：日・祝、木・土の午後〕

NPO法人

八王子・台湾友好交流協会

理事長　黒須隆一
（昭和35年卒）

〒192-0046 八王子市明神町4-1-2ストーク八王子205号
TEL・FAX 042-644-5580
携帯 090-6150-4965

《保育方針》心身共に丈夫な身体づくりと、
夢と希望を持った子供に。

社会福祉法人　愛和会

八王子市立 多賀保育園（指定管理者）

園長　和田　百合子（昭和35年卒）

〒192-0051 八王子市元本郷町3－6－16
電話:042-622-2054　FAX:042-622-2054

グループホーム

びおら

要介護の高齢者に共同生活介護を提供するほか、デイサービスやサロンのサービスを提供しています。

齊藤　万理子（昭和44年卒）

〒192-0056八王子市追分町9-4
TEL.042-682-1301
FAX.042-682-1305
http://www.biora.biz/

NAKANO

学校法人 八王子中村学園
なかの幼稚園

なかの幼稚園　そこは
子どもの世界です。

〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13
TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103
http://www.nakano-kd.ed.jp/
理事長　中村　健(昭和 46 年卒)

法あるところに救済あり！

司法書士・行政書士　空衣（そらい）事務所

みなさまとお会いしたいと思っています

代表　入沢　修自(平成5年卒)

〒206-0011 東京都多摩市関戸4－23－1 関戸ビル301
電話:042-389-5570 Fax:042-389-0755
http://www.sorai-law.com

ISO 9001 認証取得
ea エコアクション 21 認証取得

黒須建設株式会社

代表取締役社長　黒須光隆
取締役　黒須俊輔（平成20年卒）

本社　〒192-0063 東京都八王子市元横山町1-29-12
TEL 042-642-5331(代)　FAX 042-642-5314
http://www.kurosu-kensetsu.co.jp

5月19日の「2019年度あかね会総会」にご出席ください

南多摩同窓会「あかね会」は、毎年、５月の第３日曜日に八王子市内で定期総会を開催しています。（あかね会規約第7条）

毎年、定期総会に続き、卒業生などを講師とした講演会を開催して、そのあと新入会員の紹介、懇親会を開催しています。

同窓会総会は、現在の母校を知る機会であり、また、共に学んだ仲間との再会、年齢を越えた先輩や後輩の新たな出逢いの場でもあります。同級生、クラブ活動を共にした仲間等と誘い合ってご参加ください。

SIO のホームページより

今年は総会終了後に、広報の今号でも紹介しているSIO（昭和62年卒）のミニコンサートを予定しています。

2019年度あかね会定期総会

【日時】2019年5月19日（日）　11時～
【場所】ザ・ビー八王子
　　八王子市明神町 4-6-12　☏　042-646-0111
【懇親会費】5,000円、学生2,000円（当日徴収します）
【プログラム】
総会　11 時～12 時
　事業報告・決算、事業計画・予算、役員改選
　その他

ミニコンサート　12 時～13 時
　シンガーソングライター「SIO」
　小塩　晶人氏　（昭和62年卒）
　http://sio.or.tv/
懇親会　13 時～
　昼食、懇談、新入会員の紹介等
【申込方法】常任委員を通じてお申し込みください。
　又は、下記へ5月11日（土）までにご連絡ください。
　【申込先】　山口久美子　☏090-1214-7484
　　溝口　　猛　☏090-6489-5939

南多摩110周年・中等教育学校創立10周年記念祝賀会のお誘い

本年は、同窓会設立110周年・中等教育学校創立10周年を迎えます。これを記念して祝賀会を次の日程により開催します。同期生のお仲間をお誘いしてご参加ください。たくさんの卒業生のご参加をお待ちしています。

参加ご希望の方は、会報に同封の返信ハガキによりお申込みください。

【日時】　2019年10月31日（木）　17時30分～
【会場】　京王プラザホテル八王子　５Ｆ「翔王」
【会費】　8,000円（学生4,000円）（予定）
【内容】　セレモニー、太鼓演奏、インタビュー等
【主催】　同窓会あかね会、南多摩PTA、PTAOB会

同窓会「あかね会」の活動に一緒に参加してみませんか

◆高尾山納涼会（8/24（土））　高尾山薬王院の精進料理を食べて夏バテを解消。参加費5,000円（予定）
◆母校文化祭にお出でください。（9/7(土)・8(日)）

卒業後離れていた母校を訪ずれてみませんか。「あかね会」のブースで卒業生の皆様をお待ちしています。
⇒連絡先　　溝口　猛【電話】090-6489-5939

住所変更の際には、同窓会にご一報ください

毎年、広報紙を発行すると、多数の戻り便が発生しています。会員の皆様にご住所やお名前の変更がありましたら、同窓会の名簿担当あてに連絡をお願いします。

【メール】meibo@akanekai.org
【郵　便】〒192-8562　八王子市明神町 4-20-1
　都立南多摩中等教育学校内　あかね会名簿担当あて

【編集後記】

後輩たちの躍進が目覚ましい。一方で卒業生たちも決して負けてはいない。今号ではスポーツ界と音楽界で活躍している二人の卒業生を取り上げて紹介した。二人に共通しているのは、高校生のときに出会った「好きなこと」を続けているということだ。二人の人生は決して平坦ではなかった。挫折も味わい夢を諦めかけたこともある。それでも続けられたのは「好きだから」だろう。

昨年「君たちはどう生きるか」という本が話題になった。どう生きるかの答えが「好きなこと」なら、後輩たちが南多摩で「好きなこと」を見つけられるよう、卒業生としてこれからも応援していきたいと思う。（菱山）